

血尿の話

出血するという事は、身体のどの部分からでも気持ちの良いものではありません。尿に血液がまじる（血尿と言います）場合も同じです。今回はこの血尿のお話をすることにします。

一口に血尿と言っても、いろんなタイプがあります。外観的には異常がなくても、顕微鏡で血液が見つけられるものを顕微鏡的血尿と言い、一目で明らかに血尿とわかるものを肉眼的血尿と言います。出血が強いものは、血のかたまりが混じる時もあります。

血尿の出方で、病気の起こっている部位がおおよそ推定されます。排尿の始めに出血するものを初期血尿と言い、尿道の出口付近の異常が考えられます。排尿の終わる頃に血尿が出るものを終末血尿と言い、尿道の奥の部分や前立腺、膀胱の出口からの出血です。排尿の始めから終わりまで一様に血液の混じるものを全血尿と言い、腎臓、尿管や膀胱からの出血が考えられます。

血尿と同時に色々な症状が出てくる場合がありますので、主なものをあげます。側腹部や下腹部に強い痛みを起こしている場合は尿管結石が考えられ、排尿痛や頻尿がある時は膀胱炎などの感染症が考えられます。

最後に血尿は出るが何も症状のないもの（無症候性血尿と言います）について述べておきます。症状がないから大丈夫とは言えません。泌尿器科医はこのタイプの血尿に最も気を使うのです。腫瘍（がん）などの大きな病気が隠れている事が多いからです。

血尿が起こったら、取り敢えず泌尿器科医に相談することをおすすめします。

平成13年 1月
定延 和夫